

令和2年度決算に係る

定期監査資料

令和3年5月

鳥取県立博物館

目 次

1	前年度指摘事項等に対する措置等	1 頁
(1)	指摘事項	
(2)	監査意見	
(3)	決算審査意見	
2	前年度県議会決算審査特別委員会の指摘事項に対する処理状況	1 頁
3	職員の定員、現員調べ	1 頁
4	役付職員の調べ	1 頁
5	主な事業に関する調べ	2 頁
6	決算資料（総括表）	15 頁
7	事業別実施状況調べ	15 頁
8	予備費の充用調べ	15 頁
9	繰越関係調べ	15 頁
(1)	継続費逐次繰越調べ	
(2)	繰越明許費調べ	
(3)	事故繰越調べ	
10	収入証紙取扱調べ	16 頁
11	現金の取扱状況	16 頁
(1)	現金取扱状況	
(2)	つり銭の状況	
12	財産に関する調べ	16 頁
(1)	公有財産	
(2)	金券類の保有状況	
(3)	基金	
(4)	債権	
13	財産の貸付け及び使用許可調べ	18 頁
(1)	土地及び建物	
(2)	物品（1品の取得価格が100万円以上のもの及び寄附受納時の評価額が100万円以上のもの）	
14	借受不動産明細調べ	19 頁
15	職員駐車場の管理状況調べ	19 頁
(1)	管理状況	
(2)	減免の考え方	
(3)	使用料の見直し	
16	寄附物件の受納状況調べ	20 頁
17	備品の処分状況調べ	22 頁
18	現金、有価証券、物品の亡失、損傷調べ	22 頁
(1)	亡失、損傷の報告状況	
(2)	物品確認の実施状況	
19	貸付金等状況調べ	22 頁
(1)	総括表	
(2)	償還状況	
20	博物館運営	23 頁
(1)	管理運営	
(2)	利用状況	
21	博物館資料保有状況	39 頁

1 前年度指摘事項等に対する措置等

(1) 指摘事項

該当なし

(2) 監査意見

該当なし

(3) 決算審査意見

該当なし

2 前年度県議会決算審査特別委員会の指摘事項（口頭指摘を含む。）に対する処理状況

該当なし

3 職員の定員、現員調べ

(令和3年5月1日現在)

種別 区分	事務職員		技術職員		現業職員		計		備 考
	当該年度	2.4.1現在	当該年度	2.4.1現在	当該年度	2.4.1現在	当該年度	2.4.1現在	
定員	4	4	19	19	0	0	23	23	
現員	(1) 4	(1) 6	() 18	() 18	() 0	() 0	(1) 22	(1) 24	・育児休業：事務職員1名
過不足(Δ)	0	2	Δ 1	Δ 1	0	0	Δ 1	1	
臨時的 任用職員	0	0	0	0	0	0	0	0	
会計年度 任用職員	4	4	41	42	3	3	48	49	・事務4名（一般事務2名、事務補助1名、複写機オペレーター1名） ・技術41名（史料補修専門員3名、資料管理専門員1名、貝類標本専門員1名、広報・普及専門員1名、受付5名、看視員30名） ・現業3名（警備員3名）

4 役付職員の調べ

(令和3年5月1日現在)

職 名	氏 名	在職期間		備 考
		年	月	
館長	尾崎 信一郎	0	1	教育委員会 理事監 継続勤務期間 14年3月
副館長(兼)	漆原 芳彦	0	1	本務 美術館整備局次長 継続勤務期間 4年
副館長兼総務課長	藤原 浩	0	1	出納員 継続勤務期間 3年
学芸課長	川上 靖	0	1	継続勤務期間 20年
美術振興課長	三浦 努	1	1	継続勤務期間 19年
総務課課長補佐	森田 佳代	1	1	
総務課課長補佐	岩成 安雄	1	1	
主幹学芸員	一澤 圭	0	1	継続勤務期間 16年
主幹学芸員	福代 宏	7	1	継続勤務期間 27年

5 主な事業に関する調べ

(単位：千円)

事業名	決算額	財源内訳		
		国庫支出金	その他	一般財源
企画展開催費	75,476	0	18,712	56,764
将来ビジョン	—			
令和新時代創成戦略	—			
政策項目	—			

(概要)

鳥取県に関わりのある自然、歴史・民俗、美術並びに国内外の博学・美術の魅力を広く県民に紹介する企画展を開催した。

【輝いていた60's—1960年代のスポーツと生活文化—】

○当該企画展に係る決算額 (単位：千円)

	事業費	左の内訳	
		入館料収入	一般財源
予算額	17,489	1,545	15,944
決算額	16,219	1,146	15,073

ア 目的及び事業の実施状況

(ア) 目的

- 東京2020・東京でのオリンピック開催を機に、アジア初となった前大会(昭和39・1964年)を振り返り、日本と鳥取県の1960年代の出来事、当時の生活資料を展示紹介する。
- 当館所蔵資料に合わせて、個人蔵の東京オリンピック関係資料、日本有数の昭和家電コレクターである富永潤さん(三重県伊賀市・昭和ハウス館長)のコレクションをあわせ、大型資料の展示やジオラマを製作してひと昔前の豊かな時代「昭和」を体感していただく。

(イ) 事業の実施状況

- 新型コロナウイルス感染症による警戒期間であったが、来館者のツイッター投稿によりSNS上で評判となったり、富永館長のYouTubeでの発信効果もあり、目標入館者数をほぼ達成することができた。
- 出品資料を掲載した図録も制作した。

会期	入館者数	目標
令和2年6月6日(土)から同年7月5日(日)まで 29日間(休館日6月22日)	4,565人	5,000人

※うち有料入館者数：2,352人(入館者数の51.5%)

<入館者の地域別割合>アンケート回答者

地域	県東部	県中部	県西部	県外	無回答	計
人数[人]	72	10	10	10	1	102
割合[%]	70.6	9.8	9.8	9.8	1.0	100

<関連事業参加者数>

内容	参加者数
歴史講座「昭和ハウス・富永館長の昭和レトロ講座(1)」(6/7)	20名
講演会「鳥取県のオリンピック—陸上競技選手を中心に—」(6/14)	65名
講演会「オリンピックがくれたもの」(6/21)	20名
歴史講座「60年代の鳥取市街地をぶらり」(6/28)	15名
歴史講座「昭和ハウス・富永館長の昭和レトロ講座(2)」(7/5)	25名

イ 令和2年度の事業実施に当たり改善等に取り組んだ点

- ・ 東京2020参画プログラム(内閣官房ホストタウンアクション)に位置づけた。
- ・ オリンピックの開催機運の盛り上がりにあわせて現代史(昭和レトロ)を紹介する、当館初の試みの展覧会であったこと。

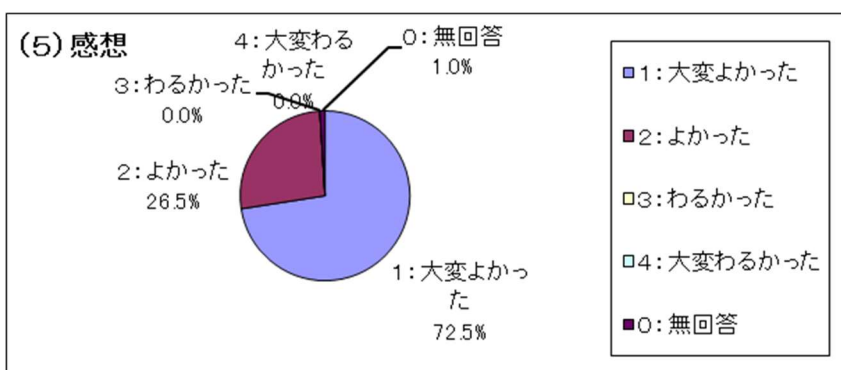
ウ 成果及び効果

- ・ 多くの来場者から内容に満足したとの声が寄せられた。大型連休時期に新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から行動制限を余儀なくされていた住民に、外出する契機となった県立施設主催の展覧会(催し)となったのではなかろうかと考える。
- ・ 入館者は目標の5,000人に対し、実績は4,565人とわずかに及ばなかったが、高齢層へのノスタルジーだけでなく、若年層にも昭和のデザインや生活様式が関心を呼んだ内容であったことが来場者層の幅広さからも窺われた。

<入館者の満足度等>アンケート回答より

感想(主なもの)

- ・ 祖父母、両親から聞いていた1960年代や東京オリンピックの話を思い出しながら鑑賞しました。
- ・ オリンピックの運営や進行に興味があったので、資料や地図がたくさん展示されていてよかった。そして出場選手の寄贈資料で実際の体験を知ることができてよかった。



- ・ 展示点数の豊かさと希少さに感動しました。オリンピックの展示では、鳥取県からも多数関っていて、とても誇りに思えた。
- ・ オリンピックの展示だけでなく、60年代の生活文化を実感できる展示をされたことが懐かしい気持ちになり、さまざまな思い出が甦って楽しかったし、うれしかったです。
- ・ 展示品がバリエーション豊かでおもしろすぎました！！オリンピックだけでなくカルチャー、当時の日常生活、建築と、よくばりすぎるくらい密度が濃くて本当に楽しかったです！！
- ・ 東京オリンピックをひかえてる今、前回の東京オリンピックの様子を資料を通してくわしく知ることができ良かった。最後の方の県民参加型企画もユニークで良かった。展示品を通しそれぞれの思い出や家族のストーリーが知ることができたのが、ほほえましい気持ちになり印象に残った。
- ・ クイズラリーが楽しいです。撮影もOKなところがあるという点も良いです。

エ 課題

- ・ 会期中に県外移動が可能になり、広範囲から来館者が訪れたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策の試行時期であり、対応が難しかった。

【こんにちは変形菌！ とってもふしぎな生きものです】

○当該企画展に係る決算額

(単位：千円)

	事業費	左の内訳	
		入館料収入	一般財源
予 算 額	18,521	2,650	15,871
決 算 額	18,473	6,455	12,018

ア 目的及び事業の実施状況

(ア) 目的

変形菌は動物でも植物でもなく、「菌」という字が付くが菌類(カビやキノコ)や細菌でもない。大きくはアメーバの仲間で、アメーバ状の姿からキノコのような姿に変身する、ふしぎな生きものである。

本企画展では、このようなふしぎな生きものである変形菌をより多くの人に知ってもらうため、さまざまな標本や模型をはじめ、写真や映像をふんだんに取り入れて、その姿や生態を紹介した。

(イ) 事業の実施状況

- ・ 変形菌をより多くの人に知ってもらうため子実体の多様性や変形体の体のつくり、ふしぎな生態を紹介した。
- ・ 南方熊楠(みなかた・くまぐす)や昭和天皇など昭和初期の変形菌研究の様子を歴史的標本や書簡などをとおして紹介した。
- ・ 変形菌で迷路を解いたり、都市交通網構築のヒントとされる理工学分野への利用などを紹介した。

会 期	入館者数	目 標
令和2年7月18日(土)から8月30日(日)まで 44日間(会期中無休)	10,455人	8,000人

※ うち有料入館者数：5,227人(入館者数の49.9%)

※ 7月31日に鳥取市内中学生の新型コロナウイルス感染があり、来館者も減少したが閉館等の措置は取らず、細心の注意のもと全日程開館した。

<来場者の地域別割合>アンケート回答者

地域	県東部	県中部	県西部	県外	無回答	計
人数[人]	326	51	60	108	1	546
割合[%]	59.7	9.3	11.0	19.8	0.2	100

<関連事業参加者数>

内 容	参加者数
講演会「ときめく変形菌」 「単細胞の賢さを探る」 (7/25)	125人 (定員減満員)
自然講座「リアル変形菌フィギュアをつくろう」 ※美術ワークショップとコラボ (8/1(2回実施))	36人 (満員)
講演会「トークライブ 世界は変形菌でいっぱいだ フシギでカワイイ変形菌のお話」 (8/2)	100人

イ 令和元年度の事業実施に当たり改善等に取り組んだ点

- ・ 平成30年から変形菌に特化した当館主催の観察会を開催し、令和元年には日本変形菌研究会の合宿を大山町大山で開催するなどして、変形菌の知名度向上や地元の資料収集に努めた。これらの活動で収集した地域の標本も本企画展で展示した。
- ・ 企画展のテレビスポットCMIに変形体の動きや子実体形の動画、プロカメラマンの画像を取り入れた。
- ・ 展示室内では虫めがねを使って来館者が主体的に変形菌標本を観察できるようにした。(アルコール消毒の環境を整えて対応した。)
- ・ 美しい生きた子実体は館内に持ち込めないため、ふんだんな大判写真で紹介した。
- ・ 実体形成、飛散する孢子、変形菌が食べる・食べられるなど多くの動画をB3版相当の液晶TVで展示した。
- ・ 変形菌研究の黎明期を紹介し、南方熊楠から昭和天皇への献上標本90点をスライドショーで紹介するなどした。また、南方熊楠の御進講の様子を水木しげる著『猫楠(ねこぐす)』を用いて紹介した。
- ・ 理工学分野で研究されている変形体の展示を行い、来館者が巨大な迷路に入り変形体の動きを理解する体験などを楽しく学べる工夫をした。

ウ 成果及び効果

- ・ 来館者アンケートでは「大変よかった」65.5%、「よかった」33.9%、「わかった」0.6%の回答を得た。わかったの理由は「難しかった」「専門的すぎる」などであった。

- ・ 会期初日に442名、2日目に862名の入場があり、また前売り券の販売も良好であったことから事前の広報がうまくいったと考えられた。来館者アンケートからみた来館動機はポスター、チラシ、テレビCMの順であった。(複数回答)
- ・ 展示の案内役として変形菌の妖精を登場させた。パネルでは長い文章になる事柄を短い言葉で端的に伝えることができ、来館者にとっても親しみやすい展示となった。
- ・ 講演会の日を中心に日本変形菌研究会の会員やいわゆる変形菌ファンが多数、遠距離からも来館があった。
- ・ 観察会や合宿で採集した変形菌の標本を見るために採集者やその家族の来館があった。
- ・ カップルでの来館が通常の展示より多く、手をつないで展示を見る姿が見られた。
- ・ アンケートや展示室内の会話では「きれい」「カワイイ」などの言葉が聞かれ、美的な感覚で展示を楽しむ人々も多かった。
- ・ アンケートの感想には「はじめて変形菌というものを知ることができた。」「日常は意識しない生きものだが、身近にもいることがわかった。」「変形菌が迷路を解くことに驚いた。」「写真が素晴らしく、自分でも探してみたいと思った。」などが多かった。
- ・ 監視員の努力で会期中に、来館者からの質問への対応が大きく向上した。感謝している。
- ・ 新型コロナウイルスの感染拡大を回避するためか、団体での入館は少なかった。

エ 課題

- ・ 今となれば、新型コロナウイルス感染症の影響を受けた中でも、工夫次第で実現できた体験型の展示がいくつかあり、少々残念である。

【ザ・フィンランドデザイン展 ～自然が宿るライフスタイル～】

○当該企画展に係る決算額 (単位：千円)

	事業費	左の内訳	
		入館料収入	一般財源
予 算 額	20,688	4,680	16,008
決 算 額	20,079	5,784	14,295

ア 目的及び事業の実施状況

(ア) 目的

- ・ フィンランド同様に自然豊かで、優れた手仕事の残る鳥取県で、四季の変化の激しい自然環境と共存するフィンランドの人々の豊かな生活思想と、温かみと洗練さを兼ね備えたそのデザインの世界に触れていただく。
- ・ 山陰では珍しいデザインの企画展、しかも北欧という日本人にとって憧れの地の文化に触れられる機会を提供し、潜在的なデザイン愛好層を刺激して来場者増を実現し、博物館のリピーター育成につなげる。

(イ) 事業の実施状況

- ・ 令和元年度にNHKプロモーションとともに行った海外出張の際に調査したフィンランドのタンペレ歴史博物館、コレクション・カッコネン、ヘルシンキ・デザイン・ミュージアムのコレクションを中心に出品作品を選定し、新型コロナウイルス感染症の影響を受けたが予定通り作品を空輸、当館会場に搬入し展示した。
- ・ 展示内容は、200年にわたりフィンランドという国を支えた染織、およびガラス工芸の分野の名品を中心に彩りに溢れ、創造性に満ちた各種のデザイン・プロダクツ及び絵画類263点と31点の関係資料で構成した。
- ・ 図録はヘルシンキ市立美術館監修のもと、当館のほか日本国内の巡回各館(Bunkamuraザ・ミュージアム他)と共同で編集・執筆した。
- ・ 会期中はバス招待事業を利用した小学生が多く来場し、対話型鑑賞等を実施した。

会 期	入館者数	目 標
令和2月10月10日(土)から11月15日(日) 36日間(休館日10月26日)	10,890人	10,000人

※うち有料入館者数：5,488人(入館者数の50.3%)

<入館者の地域別割合>アンケート回答者

地 域	県東部	県中部	県西部	県外	無回答	計
人数[人]	191	29	22	29	3	274
割合[%]	69.7	10.6	8.0	10.6	1.1	100

<関連事業参加者数>

内 容	参加者数
記念レクチャー「フィンランドデザインの魅力」 (10/10)	43名
記念講演&ワークショップ「フィンランドの文化に触れる」 (10/17)	62名
スペシャルアートシアター「かもめ食堂」 (10/24)	140名
担当学芸員によるギャラリートーク (10/31)	48名
ワークショップ作り隊による染色ワークショップ (11/7)	15名
担当学芸員によるアートセミナー (11/14)	29名

イ 令和2年度の事業実施に当たり改善等に取り組んだ点

- ・ NHK鳥取放送局、広島放送局を中心にメディアへの露出を積極的に行い、広範囲(中国地方全域)と幅広い世代への周知をはかった。
- ・ チラシ等のビジュアルを、可愛らしい書体とイラスト、著名なデザイナーの家具やドレスなどで構成し、親しみ易く魅力的な展示内容であることを前面に出した紙媒体広報を行った。

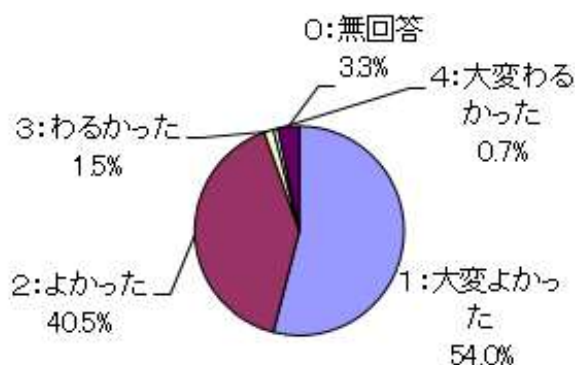
ウ 成果及び効果

- ・ フィンランドデザインの代表的なプロダクトがまとめて展示されるのは山陰では初ということもあり、多くの来場者から内容に満足したとの声が寄せられた。大規模な海外デザイン展を幹事館として立ち上げたことも、館として今後を生かせると思う。
- ・ 入館者目標の10,000人に対し、実績は10,890人と上回った。若年層だけでなく高齢層にも訴求する内容であったことが来場者層の幅広さからも窺われ、それが結果的に来場者増につながったと思われる。

<入館者の満足度等>アンケート回答より

感想(主なもの)

- ・ トータルでライフスタイルを楽しむ為のデザインを体感できて良かった。
- ・ HAM協力があつたので見たことのあるものばかりと思ったがそうでもなく、沢山の展示があり良かった。
- ・ 今までマリメッコとムーミンのみしか知らなかったフィンランドのデザインやイラスト文化について知ることができ良かった。
- ・ 説明文はもう少し判りやすく書いていただきたい。
- ・ 展示にメリハリがなくてぼやけた感じがした。



エ 課 題

- ・ 「染織品とガラスを中心に」という選定コンセプトであったが、来場者の声では、「自然が宿る」「森の国フィンランド」ということなら、もっと木工家具が見たかったという意見があった。また、陶磁器類についても、もっと普段使いのものを多く見たかったという声もあった。主催者側のフィンランドデザインに対する評価と、一般のデザインファンの認識の差とを埋める視点がもう少し必要であったかもしれない。

【ミュージアムとの創造的対話 vol. 3 何が価値を創造するのか？】

○当該企画展に係る決算額 (単位：千円)

	事業費	左の内訳	
		入館料収入	一般財源
予 算 額	6, 988	576	6, 412
決 算 額	6, 988	275	6, 713

ア 目的及び事業の実施状況

(ア) 目的

ミュージアムを巡る問いを契機に、国内外の優れたアーティストによる実験的で多彩な表現を展示室の内外に展開させることで思考を促し、人やモノ、場との対話を重ねながら、その現代的な意味を探る。

(イ) 事業の実施状況

- ・ 今回は、ある個人コレクターの現代美術コレクションと、当該コレクション収蔵作家4名(渡辺英司、大塚泰子、竹川宣彰、藤原勇樹)による新旧作の展示を通じて、美術作品における「価値」とは何か、それはいつどのように作られるのかについて考察を促すことを試みた。
- ・ 「ミュージアム」の空間を相対化するために、展示室だけではなく、博物館のアプローチ、並びに倉吉市内の倉庫等にサテライト会場を設け作品を展示した。
- ・ ギャラリートーク、特別講演会等の関連企画を全4事業実施し、様々な切り口で作品や展覧会へのアプローチする機会を提供した。

会 期	入館者数	目標
令和2年11月28日(土)～12月27日(土) 29日間(休館日12月14日)	1,988人	2,500人

※うち有料入館者数：559人(入館者数の28.1%)

<入館者の地域別割合>アンケート回答者

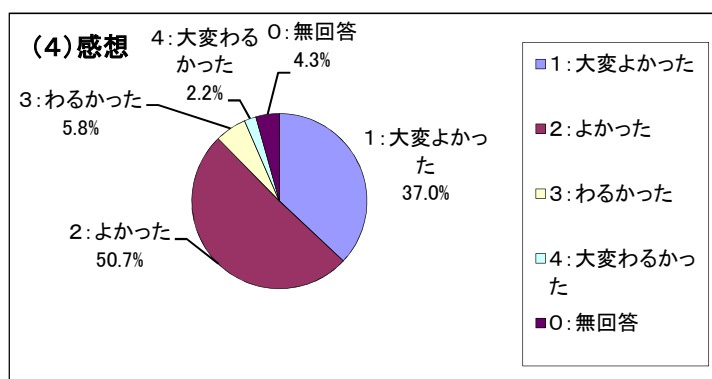
地域	県東部	県中部	県西部	県外	無回答	計
人数[人]	91	14	9	22	2	138
割合[%]	65.9	10.1	6.5	15.9	1.4	100

<入館者の満足度等>アンケート回答より

「大変よかった」「よかった」とする意見が合計87.7%と好評だった。

感想(主なもの)

- ・ 美しい作品も良いが、違った目線で見ればこれもまた芸術なのかと再発見できた。頭も使って、考えてわからない所も沢山あるけど何か面白い作品がたくさんあった。
- ・ 普段、現代美術に触れる機会が皆無なのでとても興味深かった。
- ・ 作品解説等もなく非常に分かりづらい、見る順番さえも分からない。作品の番号がついていたらよかった。
- ・ 今までにない展示方法がされていて、新鮮な印象を受けました。
- ・ 毎回このシリーズをととても楽しく鑑賞させていただいています。このシリーズが博物館の中でも一番好きです。鳥取県でこのようなアートが見られてうれしいです。



<関連事業参加者数>

内 容	参加者数
オープニング・アーティスト・トーク	25人
ゲスト・トーク「文化芸術と価値創造について」	15人
レクチャー「作家亡き後に作品を再設置するということ」	20人
特別講演会「コレクションとアーカイヴー松澤宥・村岡三郎・原口典之を例に」	27人
学芸員と巡るギャラリー・ツアー	55人(延)
スペシャル・イベント 原口典之×木野彩子「Oil, Water and Woman」	56人

イ 令和2年度の事業実施に当たり改善等に取り組んだ点

- ・ 敬遠されがちな現代美術分野の展覧会であるため、予備知識がなくても作品と向き合い、体験的に鑑賞を楽しめるよう、作品情報を会場マップに一元化することで、作品の観察と内省的な思考を促す展示を行った。
- ・ 既存の展示空間以外の場所に作品を設置することで、現代美術を身近に感じると同時に日常の空間が変貌する驚きを鑑賞者に与えることを試みた。
- ・ 新型コロナウイルス感染症の影響を鑑み、レクチャーや展示会場の映像のオンライン公開を実施し、来館できない方々も広くアクセスしていただける工夫を行った。

ウ 成果及び効果

- ・ 今回は倉吉市出身の個人コレクターのコレクションとあわせて収蔵アーティストの新旧作を博物館および倉吉市内のサテライト会場に展示し、作品や空間の特徴・属性にあわせて作品を設置することで、現代美術作品独特の鑑賞体験を様々な展開させた。
- ・ 博物館外での展示は無料だったこともあり、何度も足を運ぶ方々も見られ、身近に現代アートに触れる機会を提供した。
- ・ 普段美術に触れる機会の少ない来場者からの反応が大きく、高校生の国語の授業の一環として展覧会が活用されるなど、今後総合的な学習への展開の可能性を感じた。

エ 課 題

- ・ 入館者数は目標の2,500人には届かず、約2,000人の実績と目標人数の83%にとどまったので、学校などへのより一層の働きかけのほか、キャッチコピーなどで目を引く広報を工夫し、来場者増を図りたい。
- ・ 現代美術のわかりにくさを指摘するアンケートが散見されたため、今後はギャラリートークの回数を増やす、入門編レクチャーを開催するなど普及活動に工夫を検討したい。
- ・ 新型コロナウイルス感染症の影響で入場者数があまり見込めない予想であったため、サテライト会場の選定の際にアクセスの良さより会場の空間を優先し、代わりにオンラインで会場の展示風景映像を公開したが、車を使わない方から各会場に距離があり周遊が困難だったという声が聞かれた。今後は公共交通機関でまわることのできる場所を検討するか、アクセス手段の確保を検討する必要がある。

【生誕110年 岡本太郎——パリから東京へ】

○当該企画展に係る決算額 (単位：千円)

	事業費	左の内訳	
		入館料収入	一般財源
予 算 額	12,593	1,536	11,057
決 算 額	12,582	5,043	7,539

ア 目的及び事業の実施状況

(ア) 目的

- ・ 日本万国博覧会50周年に合わせ、その文化面で功績のあった岡本の芸術を改めて捉え直す機会とする。
- ・ 戦前にパリを拠点として作品制作と思想の基盤を形成した時代と、戦後に東京を拠点として多岐にわたる活動を展開した時代を照応させ、岡本と関わりの深い芸術家の作品をあわせて展観することで、同時代の様相を体感していただく。

(イ) 事業の実施状況

- ・ 読売新聞社美術館連絡協議会による全国3館の巡回展の枠組みで「クルト・セリグマンと岡本太郎展」として準備を進めていたが、新型コロナウイルス感染症の影響により海外からの作品借用が困難となり、令和2年4月に巡回展を解体した。当館では日本海テレビジョンと実行委員会を結成して単館開催の企画展として再編成し、美術館連絡協議会の主催と当初の巡回展の企画館であった川崎市岡本太郎美術館による企画協力を受けるかたちで実施した。
- ・ 展示内容は、川崎市岡本太郎美術館、岡本太郎記念館、東京国立近代美術館、一般財団法人草月会にそれぞれ所蔵の岡本太郎作品計68点と、岡本太郎と関わりの深い同時代の芸術家による作品をあわせ計187点で構成した。
- ・ 図録は、実行委員会ではなく県費による制作とし、鳥取県立博物館名義で担当学芸員が編集・執筆した。
- ・ 会期中は7件の関連事業を開催したほか、小学校からシニアまで団体での来館も多く、担当学芸員による解説や対話型鑑賞等を実施した。また、団体来館した近隣小学校1校に対しては、希望者に再来館を促して子どものための美術鑑賞プログラムを試行した。

会 期	入館者数	目 標
令和3年2月11日(木・祝)から3月21日(日)まで 34日間(休館日 毎週月曜日)	10,555人	5,000人

※うち有料入館者数：6,686人(入館者数の63.3%)

<入館者の地域別割合>アンケート回答者

地 域	県東部	県中部	県西部	県外	無回答	計
人数[人]	203	27	20	36	6	292
割合[%]	69.5	9.2	6.8	12.4	2.1	100

<関連事業参加者数>

内 容	参加者数
特別講演会「パリ時代の岡本太郎」	(2/11) 56名
担当学芸員によるギャラリートークⅠ	(2/13) 52名
スペシャルアートシアターⅠ「宇宙人東京に現わる」	(2/20) 62名
岡本太郎関連短編映像上映会	(2/27) 115名
アートセミナー「岡本太郎と1950年代」	(3/6) 42名
担当学芸員によるギャラリートークⅡ	(3/13) 63名
スペシャルアートシアターⅡ「ドキュメンタリー映画 岡本太郎の沖縄」	(3/20) 58名

イ 令和2年度の事業実施に当たり改善等に取り組んだ点

- ・ 日本海テレビジョンを中心としてメディアへの露出を積極的に行ったほか、読売新聞紙面での連載記事web版美術手帖等での広報を通じて、広範囲と幅広い世代への周知をはかった。
- ・ 新型コロナウイルス感染症の影響に鑑みて、緊急事態宣言発出地域在住の講師による特別講演会はリモートにて行った。また、アートセミナーとアートシアターについては、ソーシャルディスタンスを確保するかたちで座席数を限定して行った。

ウ 成果及び効果

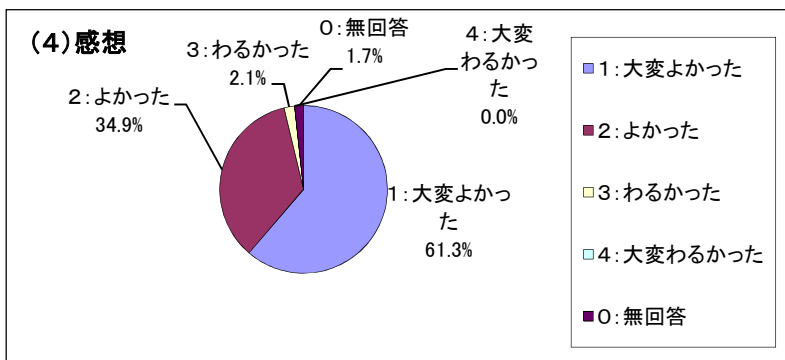
- ・ 岡本太郎の回顧展は鳥取県で初であったため、とくに県内在住者からは満足したとの声が多く聞かれた。
- ・ 郷土にゆかりは無いが知名度の高い芸術家の回顧展を企画展として開催したことは、従来の企画展の取り組みに比してややイレギュラーな試みであったが、関係する同時代の美術動向をあわせて展覧することに力点を置いたことで岡本太郎の愛好家にとどまらず、幅広い層の関心を得ることに繋がった。
- ・ 入館者目標の5,000人に対し、実績は10,555人と上回った。年代を問わず訴求する内容であったことが来場者層の幅広さからも窺われ、また、同時に新型コロナウイルス感染症の影響での自粛疲れが蔓延しているタ

イメージで岡本太郎というエネルギッシュな存在がある種の希望の光のように映ったことで、来場者増につながったと思われる。

<入館者の満足度等>アンケート回答より

感想（主なもの）

- ・ 新型コロナウイルス感染症の影響で美術に飢えていたため、見たかったものに触れてうれしく思う。
- ・ 命がみなぎっている感じがした。コロナで世間に不安感が広がっている中、生きていることの喜びが感じられる展示だった。
- ・ 岡本太郎だけでなく、氏の作に共鳴するような国内外の作家の作品そして写真に終わる構成が良かった。
- ・ 展示作品数の多さと密度の濃さ、影響を受けた(与えた)周辺の芸術家の作品を多数展示しているところが良かった。
- ・ 岡本太郎の作品は特に好きではなかったが、複数作品が集まっていると雰囲気が出て良かった。
- ・ 何度見に来ても新しい発見がある。
- ・ 一部でも写真撮影を可能にして欲しかった。
- ・ 説明、解説等の方法(文字の大きさ、文章の長さ等)が不親切でわかりにくかった。バリアフリー、障がい者への配慮が必要である。



エ 課題

- ・ 「生誕110年 岡本太郎」という回顧展を想起させる展覧会タイトルを掲げていたため、岡本太郎の作品のみで構成されていると考えて来場した方が多数見受けられたため、副題等で展覧会の本質を的確に伝える工夫が必要と感じた。
- ・ 会場でのキャプションについて、文字の小ささに対するクレームが多かったため、開幕1週間でフォントを大きくしたものに差し替えたところ、以降はクレームが無くなった。今後はデザイン性を担保しつつ、機能面での満足度を高められるように改善したい。

(単位：千円)

事業名	決算額	財源内訳		
		国庫支出金	その他	一般財源
博物館普及事業費	7,829	0	0	7,829
将来ビジョン	—			
令和新時代創成戦略	—			
政策項目	—			

(概要)

ア 目的及び事業の実施状況

(ア) 目的

- ・ 県民の生涯学習や学校教育を支援するために、各種の講座や体験学習会、移動博物館などを実施するとともに、博物館の活動、研究成果、利用方法などについて広く情報を発信する。

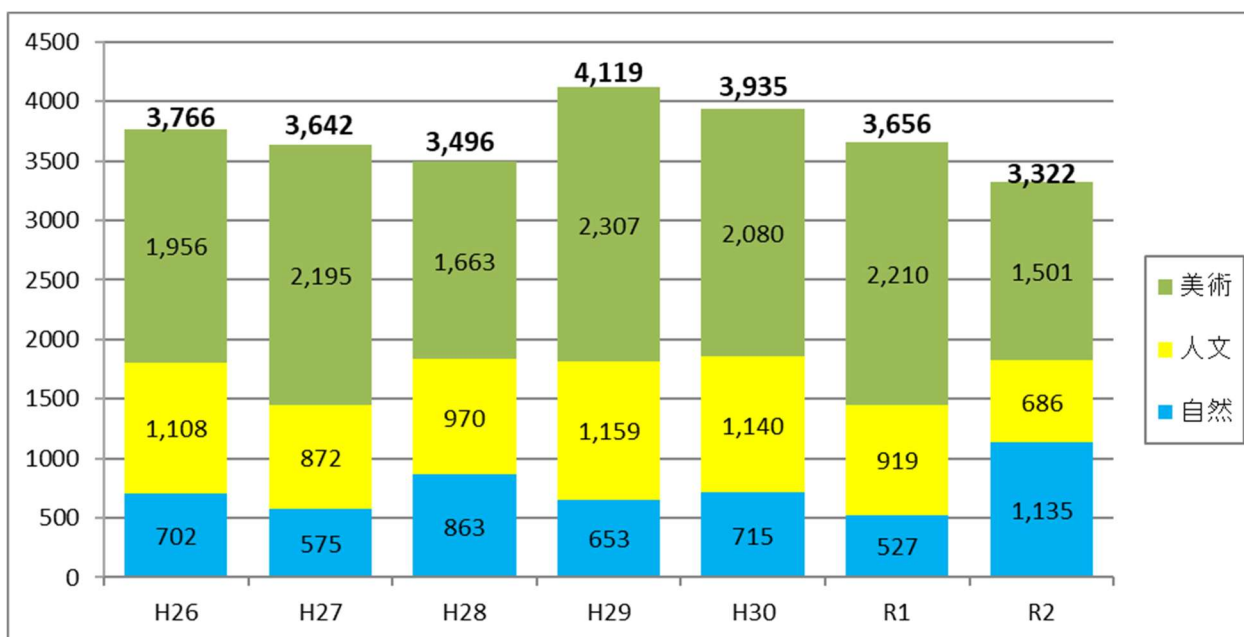
(イ) 事業の実施状況

○生涯学習支援

- ・ 館内外で、各種講演会・ワークショップ・観察会等の普及講座を開催した。なお、美術分野の「コレクション宅配便」「(美術分野)バス招待」は令和2年度から鳥取県立美術館整備事業で実施している。また、天候不順や新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止とした講座があり、例年に比べて開催実績は少ない。

普及講座の実績(令和2年度は令和3年2月末までの集計。中止回は除く)

(単位：回数=回、参加者=人)



年度	自然		人文		美術		計	
	回数	参加者	回数	参加者	回数	参加者	回数	参加者
H26	17	702	32	1,108	50	1,956	99	3,766
H27	18	575	30	872	50	2,195	98	3,642
H28	20	863	32	970	53	1,663	105	3,496
H29	21	653	37	1,159	63	2,307	121	4,119
H30	20	715	36	1,140	61	2,080	117	3,935
R1	17	527	33	919	54	2,210	104	3,656
R2	21	1,135	29	686	42	1,501	92	3,322

- ・館蔵資料や作品を県内各地で見学・鑑賞に供するため、移動博物館・移動美術館を開催した。

移動博物館・移動美術館／出前展示の実績

(単位：回数＝回、入場者＝人)

年度	自然		人文		美術		計	
	回数	入場者	回数	入場者	回数	入場者	回数	入場者
H26	4	3,526	7	2,312	1	246	12	6,084
H27	6	2,611	4	1,003	2	851	12	4,465
H28	5	643	5	3,778	2	569	12	4,990
H29 ^{※1}	2	943	自然・人文共同開催 (左記に含む)		2	2,231	4	3,174
H30	4	674	3	275	2	645	9	1,594
R1 ^{※2}	4	455	5	1,653	2	1,927	11	4,035
R2 ^{※2}	4	475 ^{※3}	1	350	1	406	6	1,231

※1 移動博物館を希望する学校や公民館等の応募開催から、平成29年度より当館が選定する会場での開催に変更。展示を希望する学校への対応は「出前展示」と名称を変更して継続。

※2 自然・人文共同開催の1回は自然の欄に含む。

※3 自然・人文共同開催の1回はショッピングモール開催のため集計できず。

○学校教育支援

- ・博物館の持つ専門知識や博物館資料等の学習資源を学校教育活動やその対象となる学校教職員に提供する「教員のための博物館の日」は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止した。
- ・「教員のための博物館の日」の第1回の開催は平成26年度で、59名の参加者は有給休暇扱いで参加していた。平成27年から県教育センターの研修講座として出張扱いでの参加が可能となり、平成27年には90名と参加者が急増。その後、平成28年は61名、平成29年は64名、平成30年は37名、令和元年度は55名と推移している。令和2年度は50名の参加申込があった。
- ・アウトリーチ事業として、各学校等に出前展示、学芸員派遣などの照会を行い、博物館資料を活用した講座を実施した。青谷高校の「青谷学」など博学連携の取組に成長している事案ができた。

○情報発信

- ・生涯学習支援、学校教育支援、博物館の収蔵品に関する情報をとりネット(博物館ホームページ)で情報発信した。
- ・平成28年度からFacebookでの情報発信にも努めており、フォロワーは1,284人(令和3年2月末現在)。更新頻度も増えており、「いいね!」を押すことによるロコミ効果が広がっている。
- ・研究報告、普及誌(博物館ニュース)等の印刷物を発行した。
- ・収蔵資料データベースをリニューアルし、県立図書館・公文書館・埋蔵文化財センターの4館合同のシステムに移行した。「とっとりデジタルコレクション」としてweb公開している。

イ 令和2年度の事業実施に当たり改善等に取り組んだ点

- ・3密を避けたり、募集人員を減らしたりするなど新型コロナウイルス感染拡大防止に努めた。
- ・庁内LANノーツDBを活用して、普及講座の開催結果の復命を登録しDBを使うことによって効率化を図り、担当者に周知して速やかな復命や参加者数の集計ができるようになった。
- ・「川原の石をしらべよう!」(自然)・「古戦場・山城・荘園をあぐる」(人文)など、地域素材を活かしたプログラムを実施した。
- ・「化石のスケッチ講座」「チリメンモンスターをさがそう」など新しいプログラムも実施した。
- ・県民協力団体と連携した講座を開催した。
- ・学校からの展示希望について、「出前展示」として実施した。
- ・ホームページ、SNSを積極的に活用した広報を展開した。広報課の広報推進員研修に参加し、効果的な広報の実践を学んだ。

ウ 成果及び効果

- ・ 緊急事態宣言期間(4～5月)や県内での新型コロナウイルス感染拡大時期(8月)は、普及講座をやむなく中止した。開催できていれば参加者はもう少し伸びたものと思われる。
- ・ 前年度に比べて、学校からの出前展示や学芸員派遣の依頼が増えた。博学連携の取組の成果が徐々に現れてきたものと考えられる。
(令和元年度：6件→令和2年度：22件 ※コレクション宅配便、美術バス招待除く)

エ 課題

- ・ SNSによる情報発信に多くの館職員が関わっていく仕組み作りが必要である。また、SNSの記事の頻度・内容等を反響の大きかった記事の傾向をもとに改善し、より多くの方の目にふれるような記事づくりをする。
- ・ 速やかな情報発信をするために、反響の大きい記事を参考にして「ひな形」を作り、各担当が各自で情報発信できる仕組みを作る。
- ・ 中止となった「教員のための博物館の日」は、県教育センターと連携した研修として実施しているが、令和2年度は連携講座としての研修時間が短くなった。教員のニーズと合わせながら、社会教育施設としての博物館の役割をPRしていく必要がある。そのために、来館したときのプログラム、ICTを利用したプログラムなどを検討・用意する必要がある。また、当館から遠方に所在する学校のために地域の博物館・美術館と連携して橋渡しを行う必要がある。
- ・ 新しい生活様式に沿った新しい普及講座の在り方(3密を避けるなど)を検討し、また障がいの有無にかかわらず、どんな方でも参加可能なユニバーサルな講座の形を模索する。
- ・ 収蔵資料のデジタルアーカイブ「とっとりデジタルコレクション」の公開と、学校のGIGAスクール化に伴い、デジタルアーカイブを活用した学校との連携を今後図っていく。
- ・ オンラインでの講座開催などの要望もあり、講堂や会議室のオンライン配信の取組を実施していく。

<令和2年度研究成果>

【自然担当】

- ・鳥取県立博物館研究報告58号に、次の研究を出版・発表した。
 - 鳥取県立博物館に寄贈された田村豊實チョウ類コレクション目録
2016年に当館に寄贈されたチョウ類コレクションの整理が終了し、目録を発表した。コレクション内の日本産チョウ類は5科200種8,948個体で、鳥取県内で採集されたものは5科104種4,988個体である。このうち24種がレッドデータブック掲載種となっており、県内のチョウ類の分布や生息状況を把握する上で大変重要な資料である。
 - 鳥取県東部沿岸および周辺海域におけるウミウシ類(予報)
鳥取県岩美町沿岸で、ダイビングインストラクター延べ約20名の協力を得て、スキューバダイビングによるウミウシ類の調査を集中的に行ったところ、134種が確認された。

【人文担当】

- ・当館所蔵と個人蔵(本年度末に寄贈受け入れ)の東京オリンピック資料を調査し、企画展「輝いていた60's—1960年代のスポーツと生活文化—」に展示すると共に画像を収めた図録を制作した。
- ・鳥取県立博物館研究報告58号に、次の研究を出版・発表した。
 - 近世前・中期における鳥取藩の御用絵師とその制度的展開について
当館所蔵の鳥取藩政資料のうち家老の業務日誌である「控帳」(家老日記データベースとしてホームページで公開)を用いて、鳥取藩の近世前・中期の御用絵師の人物確定を行い、同時期の御用絵師制度の変遷について検討した。

【美術担当】

- 令和元年度におこなったフィンランドにおけるデザイン調査、および日本における北欧デザインの受容経緯の調査研究も踏まえて、その成果として「ザ・フィンランドデザイン展」を開催した。同展に併せて一般図書として刊行された図録にも調査研究を反映させた。
- 平成29年度より倉吉市出身の個人コレクターによるコレクションの総体及び収蔵作家に関する調査・研究を行い、その成果として「ミュージアムとの創造的対話03 何が価値を創造するのか？」を開催し、その成果をウェブサイトで公開した。
- 生誕110年を迎えた岡本太郎、およびクルト・セリグマンや鬘光など岡本と関係のあった国内外の芸術家の調査研究を行い、その成果として「生誕110年 岡本太郎 —パリから東京へ」を開催した。その成果を反映させた図録も刊行した。

- 6 決算資料
別途提出
- 7 事業別実施状況調べ
別途提出
- 8 予備費の充用調べ
該当なし
- 9 繰越関係調べ
該当なし

10 収入証紙取扱状況

有 ・ 無

11 現金の取扱状況

(1) 現金取扱状況 (令和3年3月31日現在)

収入科目(節)	収入済額(円)	件数(件)	備考
教育使用料、博物館使用料	6,904,790	277	博物館入館料
物品売払収入	578,950	59	刊行物(図録)売払収入
雑入	14,910	43	公衆電話使用料、コピー代、余剰金
合計	7,498,650	379	

(2) つり銭の状況 (令和3年3月31日現在)

つり銭の有無	有	つり銭の額(円)	250,000
--------	---	----------	---------

12 財産に関する調べ

(1) 公有財産

ア 土地

(令和3年3月31日現在)

行政・普通財産の区分	機関名又は施設名等	所在地	前年度末		本年度異動状況				差引		備考
			面積(m ²)	価額(円)	増減別	異動日	面積(m ²)	価額(円)	面積(m ²)	価額(円)	
行政財産	鳥取県立博物館	鳥取市東町二丁目124番地	14,227.96	不明	増加	R			14,227.96	不明	
	博物館湖山倉庫	鳥取市湖山町南三丁目505の一部	3,260.40	不明	減少	R			3,260.40	不明	
計			17,488.36	0					17,488.36	0	

イ 建物

(令和3年3月31日現在)

行政・普通財産の区分	機関名又は施設名等	所在地	前年度末		本年度異動状況				差引		備考
			面積(m ²)	価額(円)	増減別	異動日	面積(m ²)	価額(円)	面積(m ²)	価額(円)	
行政財産	鳥取県立博物館	鳥取市東町二丁目124番地	9,699.18	726,927,000	増加	R			9,699.18	726,927,000	
	博物館湖山倉庫	鳥取市湖山町南三丁目848	488.80	15,739,470	減少	R			488.80	15,739,470	
計			10,187.98	742,666,470					10,187.98	742,666,470	

ウ 山林 該当なし
 エ 不動産売却等 該当なし
 オ 財産の交換 該当なし
 カ 動産（船舶、浮標、浮棧橋、浮ドック、航空機） 該当なし
 キ 物権 該当なし
 ク 無体財産権（特許権、著作権、商標権、実用新案権等） 該当なし
 ケ 有価証券 該当なし
 コ 出資による権利 該当なし

(2) 金券類の保有状況

ア 金券の保有状況

有 . 無

イ タクシーチケットの保有状況

(令和3年3月31日現在)

前年度未使用枚数	本年度中		本年度未使用枚数
	購入枚数	使用枚数及び金額	
99 (JOB : 35枚) (ハイヤ-組合 : 64枚)	0 (JOB : 0枚) (ハイヤ-組合 : 0枚)	11 34 (期限切れ等) (JOB : 4枚、期限切れ31枚) (ハイヤ-組合 : 7枚、未使用処分3枚)	54 (JOB : 0枚) (ハイヤ-組合 : 54枚)
		13,350 円	

(3) 基金 (令和3年3月31日現在)

種別	前年度末	本年度中		本年度末	備考
		増	減		
鳥取県美術品取得基金	500,000,000	22,327,000	22,327,000	500,000,000	美術品 6点
合計	500,000,000	22,327,000	22,327,000	500,000,000	

(4) 債権 該当なし

13 財産の貸付け及び使用許可調べ
 (1) 土地及び建物
 ア 土地 該当なし
 イ 建物

行政・普通 財産の区分	貸付 (使用許可) 目的	所在地	数量 又は 面積	貸付 (使用許可) 年月日	当初貸付 (使用許可) 年月日	貸付 (使用許可) 期間	貸付(使用)料(円)		貸付(使用許可)先		備考
							単価	本年度の 貸付(使用)料	住氏 氏名	住所 名	
行政財産	来館者のための カフェ事業	鳥取市東町二丁目 124番地	35.24㎡	H29.4.1	H23.6.28	R2.4.1 ～ R3.3.31	月額・年額 0	0	鳥取市行徳二丁目260 株式会社 グラン・クリュ食工房		
	鳥取県立博物館 振興会事業	鳥取市東町二丁目 124番地	19.66㎡	H30.4.1	H19.3.30	H30.4.1 ～ R5.3.31	月額・年額 0	0	鳥取市東町二丁目124番地 鳥取県立博物館振興会		
計								0	0		

(2) 物品 (1品の取得価格が100万円以上のもの及び寄附受納時の評価額が100万円以上のもの)

品名	数量	規格・銘柄	貸付期間	貸付料(円)		貸付先		使用場所	貸付目的	備考
				単価	本年度の 貸付料	住氏 氏名	住所 名			
國領經郎 「悠々」他	16	油彩・カン ヴァス他	R2.3.1 ～ R2.4.12	0	山形県酒田市飯森山3-17-95 酒田市美術館 館長 石川 好	酒田市美術館	「生誕100年 國領經郎展」酒田展 に出品のため			
			R2.7.1 ～ R2.8.30	0	神奈川県茅ヶ崎市東海岸北1-4-45 公益財団法人茅ヶ崎市・文化ス ポーツ振興財団 理事長 稲岡輝雄	茅ヶ崎市美術館	「生誕100年 國領經郎展」茅ヶ崎 展に出品のため			
片山楊谷 「花王獸王図」他	2	絹本・著色	R2.4.25 ～ R2.6.21	0	東京都墨田区横綱1-4-1 東京都江戸東京博物館 館長 藤森照信	東京都 江戸東京博物館	「奇才-江戸絵画の表現者たち」 東京展に出品のため			
			R2.7.8 ～ R2.8.29	0	山口県山口市亀山町3-1 山口県美術館 館長 岡田 実	山口県美術館	「奇才-江戸絵画の表現者たち」 山口展に出品のため			
			R2.9.12 ～ R2.11.8	0	大阪市阿倍野区阿倍野筋1-1-43 あべのハルカス美術館 館長 浅野秀剛	あべのハルカス 美術館	「奇才-江戸絵画の表現者たち」 大阪展に出品のため			

品名	数量	規格・銘柄	貸付期間	貸付料(円)		貸付先		使用場所	貸付目的	備考
				単価	本年度の貸付料	住氏名	所名			
辻晋堂 「顔(寒拾)」他	15	陶	R2. 4. 25 ～ R2. 6. 21	月額 年額	0	愛知県瀬戸市南山口町234 愛知県陶磁器美術館 館長 玉山哲郎	愛知県 陶磁器美術館	生誕110周年記念展「現代彫刻の 異才 辻晋堂」愛知県展に出品の ため		
			R2. 7. 8 ～ R2. 8. 29	月額 年額	0	鳥取県米子市中町12 米子市美術館 館長 中村智至	米子市美術館			生誕110周年記念展「現代彫刻の 異才 辻晋堂」米子展に出品の ため
			R2. 9. 12 ～ R2. 11. 8	月額 年額	0	京都市下京区東塩小路町657 美術館「えき」KYOTO 館長 長谷川一明	美術館 「えき」KYOTO			生誕110周年記念展「現代彫刻の 異才 辻晋堂」京都展に出品の ため
曾我蕭白 「月夜山水図襖」他	3	紙本・墨画	R2. 4. 16 ～ R2. 4. 22	月額 年額	0	鳥取県八頭郡智頭町智頭396 一般社団法人因幡街道ふるさと 振興財団 代表理事 長石彰祐	石谷家住宅	20周年記念特別展「迎賓ふたた び」出品のため		
			R3. 2. 26 ～ R3. 3. 25	月額 年額	0	鳥取県八頭郡智頭町智頭397 一般社団法人因幡街道ふるさと 振興財団 代表理事 長石彰祐	石谷家住宅			「石谷家のお雛様展」に出品のた め
合計					0					

14 借受不動産明細調べ
該当なし

15 職員駐車場の管理状況調べ
該当なし(利用者なし)

16 寄附物件の受納状況調べ

(令和3年3月31日現在)

品名	規格・銘柄等	数量	見積金額	寄附申込年月日	寄附申込者氏名	受納年月日	受納手続の有無	備考
車いす	NEO-1	1	円 73,700	R2.9.7	(公財)日本博物館協会	R2.12.18	有	
変形菌標本	標本	809	80,900	R2.4.10	個人	R2.4.15	有	自然資料
トモエガモ(雌)	本剥製	1	5,000	R2.8.21	個人	R3.8.24	有	自然資料
昆虫標本(チョウ類)	乾燥標本	約 4,500	450,000	R2.8.27	個人	R2.8.30	有	自然資料
ネコ科動物の頭骨(一部)	骨の一部	1	1,000	R2.11.20	個人	R2.12.2	有	自然資料
化石標本(八頭町明辺産)	乾燥標本	20	1,000	R2.11.8	個人	R2.11.11	有	自然資料
鳥取県産珪藻化石試料	試料	21	1,050	R3.3.11	個人	R3.3.16	有	自然資料
真田三六収集資料	刀剣	5	7,000,000	R2.6.25	個人	R3.1.28	有	歴史資料
真田三六収集資料	刀剣	5	4,250,000	R2.6.25	個人	R3.1.28	有	歴史資料
真田三六収集資料	刀剣及び書画	17	3,220,000	R2.6.25	個人	R3.1.28	有	歴史資料
旧鳥取藩士真田家資料ならびに真田三六収集資料	刀剣及び古文書	263	2,132,000	R2.6.25	個人	R3.1.28	有	歴史資料
オリンピック東京大会・第4回アジア大会出場陸上競技資料		111	936,600	R2.5.22	個人	R3.2.20	有	近現代資料
和傘		1	2,000	R2.6.24	個人	R3.2.20	有	民俗資料
木製垂鈴		10	5,000	R2.8.27	八頭町立郡家西小学校	R3.2.20	有	近現代資料
公衆電話機		1	5,000	R2.10.13	グッドヒル株式会社	R3.2.20	有	近現代資料
短床犁		1	1,000	R2.8.25	個人	R3.3.23	有	民俗資料
東京オリンピック公式ポスター第2号		1	30,000	R3.3.16	個人	R3.3.23	有	近現代資料
濱橋家文書		173	173,000	R2.7.10	個人	R3.3.24	有	歴史資料
刀掛け(漆塗丸に揚羽蝶紋)		1	30,000	R2.7.28	個人	R3.3.24	有	歴史資料
甲冑(当世具足・具足櫃)		1	30,000	R2.7.28	個人	R3.3.24	有	歴史資料
SPレコード		62	62,000	R2.8.8	個人	R3.3.24	有	近現代資料
聴取無線電話施設許可書		1	10,000	R2.9.28	個人	R3.3.24	有	近現代資料
第1期種痘済証		1	10,000	R2.9.28	個人	R3.3.24	有	近現代資料
補充兵証書		1	10,000	R2.9.28	個人	R3.3.24	有	近現代資料

品名	規格・ 銘柄等	数量	見積金額	寄附申込 年月日	寄附 申込者 氏名	受納 年月日	受納 手続 の有無	備考
鳥取駅入場券		1	円 10,000	R2. 9. 28	個人	R3. 3. 24	有	近現代 資料
鳥取県関係絵葉書		2	2,000	R2. 12. 11	個人	R3. 3. 24	有	近現代 資料
猪股登志子家文書		97	588,000	R3. 1. 20	個人	R3. 3. 24	有	歴史 資料
漆塗椀（葵紋）		1	10,000	R3. 3. 10	個人	R3. 3. 24	有	歴史 資料
日上直当流体術免状		1	10,000	R3. 3. 15	個人	R3. 3. 24	有	歴史 資料
サンヨー電機株式会 社製ワードプロセッ サー		1	2,000	R3. 3. 23	滝山越塚 町内会	R3. 3. 24	有	民俗 資料
松井康成《堆線文方 壺銘「道」》	陶器	1	1,000,000	R2. 3. 20	個人	R2. 5. 25	有	美術 資料
伊谷賢蔵《康子》他 油彩・素描類	油彩・キャン バス他	23	6,700,000	R2. 3. 20	個人	R2. 5. 25	有	美術 資料
山本兼文《帰ってきた 青年》他彫刻類	木、他	5	2,950,000	R2. 3. 20	個人	R2. 5. 25	有	美術 資料
山本兼文《茄子女》	石膏・着色 他	1	600,000	R2. 3. 20	個人	R2. 5. 25	有	美術 資料
島田元旦《花鳥図屏 風》他近世絵画資料 類	絹本著色他	11	10,000,000	R2. 3. 20	個人	R2. 5. 25	有	美術 資料
辻晋堂《少女の首》 他辻晋堂初期作品	木、他	18	27,600,000	R2. 3. 20	個人	R2. 5. 25	有	美術 資料
辻晋堂《木樵のから だ》他辻晋堂作品、 資料類	陶、他	15	19,650,000	R2. 3. 20	個人	R2. 5. 25	有	美術 資料
中井金三《薔薇》	油彩・キャン バス	1	400,000	R2. 4. 5	個人	R2. 5. 25	有	美術 資料
根本幽峨《井手玉 川・野路玉川図屏 風》	紙本著色屏 風	2	1,800,000	R2. 4. 6	個人	R2. 5. 25	有	美術 資料
合計		約 6,188	89,841,250					

17 備品の処分状況調べ

品名 (規格・銘柄)	数量	(保管換年月日) 取得年月日	不用決定 年月日	不用とする理由	処 分			備考	
					売却棄却 の別	売却方法・棄却理由	処分年月日		売却額・ 処分費用 円
ガーデンチェアセット	1	H23.6.23	R2.8.21	使用不可(老朽化)	棄却	老朽化及び破損によるもの	R2.8.21	0	
ガーデンチェアセット	1	H23.6.23	R2.8.21	使用不可(老朽化)	棄却	老朽化及び破損によるもの	R2.8.21	0	
自動体外式除細動器 (AED)	1	H24.12.11	R2.8.21	使用不可 (保証期間切れ)	棄却	保証期間切れによるもの	R2.8.21	0	業者引き取り
絵画	1	S41.12.1	R2.5.19	二重登録	棄却	二重登録によるもの	R2.5.19	0	
ガス給湯器	1	H23.6.20	R3.2.3	予防保全の為 (耐用年数経過)	棄却	老朽化による使用不可	R3.2.3	0	業者引き取り
合計	5							0	

18 現金、有価証券、物品の亡失、損傷調べ

(1) 現金、有価証券、物品の亡失、損傷調べ
有 ・ 無

(2) 物品の照合
有 ・ 無

19 貸付金等状況調べ
該当なし

20 博物館運営

(1) 管理運営

ア 博物館協議会

鳥取県立博物館協議会(昭和33年条例第16号設置)は、委員13人で構成し、運営、自然、美術、人文の専門部会を組織して運営している。

会議の開催状況

全体会 令和2年6月18日(書面表決)、11月13日

イ 入館料、使用料

入館料

(平成29年4月1日改訂)

区 分		金額			特別展示
		通常展示			
		同日中に特別展示に入館しない場合	同日中に博物館主催の特別展示に入館する場合	同日中に博物館主催以外の特別展示に入館する場合	
個人 1人1回につき	大学生以下	無 料	無 料	無 料	展示に要する経費を勘案して、教育委員会が別に定める額
	学校教育活動での引率者	無 料	無 料	無 料	
	70歳以上	無 料	無 料	無 料	
	障がいのある方 ・難病患者の方 ・要介護者等及びその介護者	無 料	無 料	無 料	
	一 般 人	180円	無 料	90円	
団 体 (20名以上) 1人1回につき	大学生以下	無 料	無 料	無 料	
	学校教育活動での引率者	無 料	無 料	無 料	
	70歳以上	無 料	無 料	無 料	
	障がいのある方 ・難病患者の方 ・要介護者等及びその介護者	無 料	無 料	無 料	
	一 般 人	150円	無 料	70円	

展示室等使用料

(平成27年4月1日改訂)

区 分	金 額	
第1展示室	1日につき 13,300円	半日につき 6,650円
第2展示室	〃 13,300円	〃 6,650円
第3展示室	〃 10,380円	〃 5,190円
講 堂	〃 5,320円	〃 2,660円
会 議 室	1時間につき 270円	

備 考

- この表中「1日」とは午前9時から午後5時までをいい、「半日」とは午前9時から午後1時まで又は午後1時から午後5時までをいう。
- 午後5時を越えて展示室又は講堂を利用するときは、この表に定める使用料の額に1時間につき次の表の左欄に掲げる区分に応じてそれぞれ同表の右欄に掲げる額の使用料を加算する。この場合において、利用時間が1時間未満であるとき又は利用時間に1時間未満の端数があるときは1時間として計算するものとする。

区 分	金 額
第 1 展 示 室	1時間につき 1, 6 6 0円
第 2 展 示 室	" 1, 6 6 0円
第 3 展 示 室	" 1, 3 0 0円
講 堂	" 6 6 0円

3 暖房又は冷房をしたときは、この表に定める使用料の額に当該額の2割に相当する額を加算する。

展示室等利用料金の減免事由

該当項目	減免対象	減免率
芸術文化団体が芸術又は文化の振興のために行う公演、展示、講演、講習等のための催し(実費を超える額の入場料又はこれに類するものを徴収しないものに限る。)のために利用するとき	展示室 講 堂 会議室	1/2
社会教育団体が社会教育活動として行う講習会、講演会、展示会その他の集会等(実費を超える額の入場料又はこれに類するものを徴収しないものに限る。)のために利用するとき	展示室 講 堂 会議室	1/2
障がいのある方、難病患者の方及びその介護者が社会参加の目的のために利用するとき	展示室 講 堂 会議室	1/2 又は 10/10
70歳以上の高齢者が社会参加の目的のために利用するとき	展示室 講 堂 会議室	1/2 又は 10/10
要介護者等及びその介護者が社会参加の目的のために利用するとき	展示室 講 堂 会議室	1/2 又は 10/10
全県の児童、生徒を対象に募集した作品の展示会(博物館の業務に関連のある展示会、講演会又は講習会で、入場料等を徴収しない場合)	展示室 講 堂	10/10
郡市単位以上の児童、生徒を対象に募集した作品の展示会(博物館の業務に関連のある展示会、講演会又は講習会で、入場料等を徴収しない場合)	展示室 講 堂	1/2
教育研究団体が教育内容の向上を目的として行う教職員を対象とした講演会又は講習会等(博物館の業務に関連のある展示会、講演会又は講習会で、入場料等を徴収しない場合)	展示室 講 堂	10/10
個人又は団体等が一般人を対象に開催する展示会、講演会又は講習会等(博物館の業務に関連のある展示会、講演会又は講習会で、入場料等を徴収しない場合)	展示室 講 堂	1/2
博物館の業務に関連のある展示会で、入場料(これに類するものを含む。)が県立博物館の入館料最高額をこえないもので、博物館長が特に減免の必要があると認め、教育長がこれを承認した場合	展示室	展示期間の 前後各1日 10/10
その他博物館長が特に減免の必要があると認め、教育長がこれを承認した場合の展示会、講演会又は講習会等	展示室 講 堂 会議室	1/2 又は 10/10
学校等が、生徒等が行う公演、生徒等の作品の展示等の文化芸術に関する行事(学年(これに相当するものとして知事が別に定めるものを含む。)単位以上の規模で行うこと、実費を超える額の入場料又はこれに類するものを徴収しないことその他知事が別に定める要件に該当するものに限る。)のために利用するとき	展示室 講 堂 会議室 冷暖房料	10/10
幼児・児童又は生徒が参加するもので、対象団体等が主催する文化芸術行事又はスポーツ行事(学年単位以上、学校の文化部が行う発表会等、対象団体が行う大会等) 【対象団体】(県内のものに限る) 幼稚園、保育所、小・中・高等学校、盲・聾・養護学校、高等専門学校、専修学校、指定技能教育施設、教育関係団体	展示室 講 堂 会議室 冷暖房料	10/10

展示室等利用料金の無料事由

該当項目	無料対象
とっとり県民の日(9月12日)には、展示室等使用料(とっとり県民の日の趣旨にふさわしい行事を行う場合に限る。)についてはこれを徴収しない。9月の第2土曜日及びその翌日における当該使用料についても、同様とする。	展示室 講堂 会議室 冷暖房料

ウ 開館時間、休館日

開館時間 午前9時から午後5時まで

(教育委員会があらかじめ指定する日にあつては、午前9時から午後7時まで)

- 休館日
- ・月曜日(その日が国民の祝日に関する法律に規定する休日(以下「休日」という。)である場合は、その翌日(その日が休日でない場合に限る。))
 - ・休日の翌日(その日が日曜日、土曜日又は休日でない場合に限る。)
 - ・12月29日から翌年の1月3日までの日

(2) 利用状況

ア 展示室等利用状況(日数)

(単位:日)

区分	常設 展示室	第1 展示室	第2 展示室	第3 展示室	講堂	会議室	合 計
主 催	305	249	249	145	29	47	1,024
その他	0	77	77	59	7	4	224
計	305	326	326	204	36	51	1,248

イ 博物館利用者数

(単位:人)

区分	常設展	企画展等	講堂	会議室	研究相談	普及活動 (講堂、会議 室を除く)	カフェ 利用者	合 計
主 催	32,637	38,453	1,297	1,379	215	2,838	0	76,819
その他	0	13,544	438	62	0	0	13,934	27,978
計	32,637	51,997	1,735	1,441	215	2,838	13,934	104,797

ウ 常設展月別入館者数

(単位：人)

月別	開館日数	幼児			小中学生			高校生			学生			一般			合計			1日当りの入館者数						
		個人	団体	計	個人	団体	計	個人	団体	計	個人	団体	計	個人	団体	計	個人	団体	計							
4月	28	46	0	46	85	0	85	15	0	15	29	0	29	(44)	(0)	(44)	158	(66)	224	(44)	(0)	(44)	333	(66)	399	14
5月	28	69	0	69	46	0	46	10	0	10	12	0	12	(74)	(2)	(76)	203	109	312	(74)	(2)	(76)	340	109	449	16
6月	27	97	12	109	202	49	251	22	0	22	69	0	69	(2,257)	(0)	(2,257)	2,348	75	2,423	(2,257)	(0)	(2,257)	2,738	136	2,874	106
7月	29	474	19	493	707	77	784	73	22	95	100	9	109	(2,472)	(2)	(2,474)	2,706	153	2,859	(2,472)	(2)	(2,474)	4,060	280	4,340	149
8月	30	627	0	627	1,495	0	1,495	137	2	139	225	0	225	(3,995)	(0)	(3,995)	4,242	173	4,415	(3,995)	(0)	(3,995)	6,726	175	6,901	230
9月	25	78	0	78	334	44	378	8	0	8	62	0	62	(149)	(0)	(149)	802	192	994	(149)	(0)	(149)	1,284	236	1,520	60
10月	30	108	0	108	165	369	534	16	98	114	37	22	59	(896)	(64)	(960)	1,109	259	1,368	(896)	(64)	(960)	1,435	748	2,183	72
11月	28	181	108	289	231	465	696	16	0	16	54	0	54	(1,146)	(1)	(1,147)	1,385	198	1,583	(1,146)	(1)	(1,147)	1,867	771	2,638	94
12月	26	55	0	55	67	217	284	16	44	60	31	0	31	(446)	(0)	(446)	610	109	719	(446)	(0)	(446)	779	370	1,149	44
1月	25	103	0	103	103	105	208	8	0	8	23	0	23	(137)	(2)	(139)	323	185	508	(137)	(2)	(139)	560	290	850	34
2月	27	191	29	220	238	54	292	62	8	70	126	0	126	(2,455)	(4)	(2,459)	2,558	121	2,679	(2,455)	(4)	(2,459)	3,175	212	3,387	125
3月	26	270	0	270	554	11	565	144	0	144	182	0	182	(4,422)	(3)	(4,425)	4,604	182	4,786	(4,422)	(3)	(4,425)	5,754	193	5,947	228
合計	329	2,299	168	2,467	4,227	1,391	5,618	527	174	701	950	31	981	(18,493)	(78)	(18,571)	21,048	1,822	22,870	(18,493)	(78)	(18,571)	29,051	3,586	32,637	99
補足説明	() は入館料減免者で内数である。																									

(3) 事業内容

ア 常設展示

(単位：点)

区 分	実物資料・標本	ジオラマ・模型・機器	計
自 然	2,210	15	2,225
歴史・民俗	820	88	908
美 術	610	0	610
合 計	3,640	103	3,743

(ア) 自然展示室 (1階 515㎡)

鳥取県の自然史、すなわち地質、地形、化石、動物、植物についての歴史と現在の姿を理解できるように、また環境問題や自然との共生を考えるために、実物標本・レプリカ・パネル等を用いてわかりやすく展示解説した。

(イ) 歴史・民俗展示室 (1階 515㎡)

本県の縄文時代から近代までの生活様式の移り変わりりと、因幡・伯耆の歴史や文化の特色が理解できるように、資料や模型・模写等を用いながら展示解説するとともに、祖先から伝承された生活用具、日用品、芸術娯楽及び年中行事や県内各地の有形・無形の民俗資料を展示解説した。

(ウ) 美術常設展示室 (1階 260㎡)

事 業 名	会 期	内 容
コレクション展Ⅰ 美術家大辞典 鳥取県立博物館 版 近世以前編：な行の美術家	3月18日(水)～ 4月26日(日)	当館所蔵品から、近世以前の「な行」の名前の全美術家の作品を紹介した。
コレクション展Ⅱ 美術家大辞典 鳥取県立博物館 版 近世以前編：は行の美術家 (上)	5月13日(水)～ 6月21日(日)	当館所蔵品から、近世以前の「は行」の名前の全美術家の作品を2期に分けて紹介した。
コレクション展Ⅲ 美術家大辞典 鳥取県立博物館 版 近世以前編：は行の美術家 (下)	6月24日(水)～ 8月23日(日)	「下」においては人文所蔵刀剣も5点展示した。
コレクション展Ⅳ 美術家大辞典 鳥取県立博物館 版 近世以前編：ま行以降の美術家	8月26日(水)～ 10月11日(日)	当館所蔵品から、近世以前の「ま行以降」の名前の全美術家の作品を紹介した。
鳥取県ミュージアムネットワーク連携事業 共同企画展「生誕100年記念 杵島隆：不滅のパイオニア精神展」(前期)	10月14日(水)～ 12月6日(日)	当館および米子市美術館が所蔵する杵島隆ほか県内写真家の作品を2期に分けて紹介した。
鳥取県ミュージアムネットワーク連携事業 共同企画展「生誕101年記念 杵島隆：不滅のパイオニア精神展」(後期)	12月9日(水)～ 1月31日(日)	
コレクション展Ⅴ 新収蔵品展	2月3日(水)～ 3月28日(日)	2018年～2020年の間に新たに収蔵した当館所蔵品を紹介した。前期(～2/28)、後期(3/2～)で一部展示替えをした。

(エ) 近代美術展示室 (2階 374㎡)

事 業 名	会 期	内 容
コレクション展 美術家大辞典 鳥取県立博物館 版 近現代編：な行・は行の美術家	4月18日(土)～ 6月7日(日)	当館所蔵品から、近現代の「な行・は行」の名前の全美術家の作品を紹介した。

事業名	会期	内容
夏休み企画 シリーズ：美術をめぐる場をつくるⅡ 高田光治 森からの贈りもの	7月18日(土)～ 8月30日(日)	自然分野の企画展とのコラボ企画。変形菌やその他の菌類、植物など、極小の存在に触発されて表現する高田光治氏によるインスタレーション展示。第1、第2展示室の自然分野の展示に関連づけ、第3展示室では、それらがアーティストの手により作品として展示された。作家の気づきやアプローチの在り方により多様な事象が表現の源となることを知らせる場となった。
コレクション展 美術家大辞典 鳥取県立博物館 版 近現代編：ま行以降の美術家	2月20日(土)～ 3月28日(日)	当館所蔵品から、近現代の「ま行以降」の名前の全美術家の作品を紹介した。

イ 特別展示

(令和3年3月31日現在)

展覧会名	期間	内容	入館者数 (人)	備考
長くつ下のピッピの世界展	R2. 4. 5 ～ R2. 4. 26	スウェーデンの作家アストリッド・リンドグレンが書いた「長くつ下のピッピ」をはじめとした児童文学作品を彩る挿絵原画や、子どもへの暴力禁止に声をあげたリンドグレンの生涯を展示した。	1,371	株式会社 新日本海 新聞社
企画展「輝いていた60's—1960年代のスポーツと生活文化—」	R2. 6. 6 ～ R2. 7. 5	日本と鳥取県の1960年代の出来事や、当時の生活資料を紹介するとともに、日本有数の昭和家電コレクターである富永潤さんのコレクションを展示し、「60年代」というひと昔前の豊かな時代「昭和」を体感していただく展覧会を行った。	4,565	
企画展「こんにちは変形菌！ とってもふしぎな生きものです。」	R2. 7. 18 ～ R2. 8. 30	ふしぎな生きものである変形菌をより多くの人に知ってもらうため、様々な標本や模型をはじめ、写真や映像により、その姿や生態を紹介するとともに、南方熊楠や昭和天皇など昭和初期の変形菌研究の様子や近年の理工学分野への利用なども紹介した。	10,455	
第64回鳥取県美術展覧会	R2. 9. 19 ～ R2. 9. 27	広く県民の方から美術作品を募り、優れた作品を展示することにより、創作活動の振興を図るとともに、鑑賞の機会を提供し、県内の美術、文化の振興に寄与する展覧会を開催した。	3,717	鳥取県 (文化政 策課)
企画展「ザ・フィンランドデザイン展 ～自然が宿るライフスタイル～」	R2. 9. 19 ～ R2. 9. 27	200年にわたりフィンランドという国を支えた染織、及びガラス工芸の分野の名品を中心に、彩りに溢れ、創造性に満ちたデザイン・プロダクツの数々を、フィンランドのタンペレ・ヒストリカルミュージアム、コレクション・カッコネン、ヘルシンキ・デザイン・ミュージアムのコレクションを中心に約250点の資料で紹介した。	10,890	
くらしにみる昭和の時代鳥取展	R2. 10. 24 ～ R2. 11. 3	戦争がもたらした苦難や昭和の人々の暮らしぶりを、当時の鳥取の写真や実物資料を交えて紹介した。	4,711	昭和館
企画展「ミュージアムとの創造的対話03」	R1. 11. 16 ～ R1. 12. 15	「ミュージアム」という場所や従来の枠組みにとらわれず、実験的で多彩な表現を展示室の内外に展開させるシリーズ企画展であり、第3回目となる今回は美術作品における「価値」をテーマに、ある個人コレクターのコレクションと、収蔵アーティストによる新旧作の展示の展示を通じて、その「価値」とは何か、それはいつどのように作られるのかについて考察する展示を行った。	1,988	
第18回鳥取県ジュニア美術展覧会	R3. 1. 15 ～ R3. 1. 23	鳥取県の児童・生徒等の創作作品を発表する場を提供し、出展機会を拡大することで、芸術文化活動への意欲を高め、県内の青少年の美術活動の振興を図るための展覧会を開催した。	2,053	鳥取県 (文化政 策課)
鳥取県文化功労賞受賞記念巡回展	R3. 1. 23 ～ R3. 1. 31	鳥取県では、優れた芸術文化活動により広く文化振興に功績のあった方の功績を讃えて鳥取県文化功労賞を設置しており、本展において令和元年度に受賞された方の功績と活動を広く紹介した。	639	鳥取県 (文化政 策課)

展覧会名	期間	内容	入館者数 (人)	備考
あいサポート・アート とっとり展東部巡回展	R3. 1. 27 ～ R3. 1. 31	平成26年度に開催した「第14回全国障がい者 芸術・文化祭とっとり大会(あいサポート・ア ートとっとりフェスタ)」の成果を未来に引き継ぐ ため、障がい者が取り組む作品制作活動の発表と 鑑賞の機会を提供することを目的に、令和元年1 2月8日に開幕した令和元年度鳥取県障がい者 芸術・文化作品展「あいサポート・アートとと り展」の東部巡回展を開催した。	584	鳥取県 (障がい 福祉課)
企画展「生誕110年 岡本太郎 —パリから 東京へ」	R3. 2. 11 ～ R3. 3. 21	生誕110年を迎える岡本太郎(1911-19 96年)に焦点を当て、その思想や作品の素地を 培った戦前のパリ時代と、多岐にわたる活動を繰 り広げた帰国後の東京での動向を照応させて展 観し、パリで育んだ前衛芸術家との交友と戦後日 本において主導した芸術運動の関係を検証する 展覧会を開催した。	10,555	
第44回鳥取書道連盟 展	R3. 3. 28 ～ R3. 3. 31	鳥取書道連盟は県東部地域を中心とした約30 0名の書人で組織されており、漢字、かな、大字 と幅広いジャンルの会員作品106点及び高校 生大作3点を展示した。	469	鳥取書道 連盟
合 計			51,997	

ウ 普及活動

(ア) 移動博物館

テーマ		場 所	期 日	定員	参加人数
自然・ 人文	とつとりの自然と歴史 in イオン モール日吉津	イオンモール日吉津	10月17日(土)～ 10月18日(日)		集計できず
合 計 1 回					集計できず

(イ) 出前展示

テーマ		場 所	期 日	定員	参加人数
自然	鳥取県の化石	鳥取市立明治小学校	11月9日(月)～ 11月13日(金)		42
	鳥取県の化石	米子市立崎津小学校	11月16日(月)～ 11月16日(金)		153
	鳥取県の化石	鳥取市立気高中学校	11月30日(月)～ 12月4日(金)		280
人文	昭和の広告	倉吉西高等学校	11月18日(水)～ 12月8日(火)		350
合 計 4 回					825

(ウ) 移動美術館

テーマ		場 所	期 日	定員	参加人数
移動 美術館	異世界へのまなざし	若桜郷土文化の里たく みの館	9月12日(土)～ 10月18日(日)		406
合 計 1 回					406

(エ) ①学芸員派遣(教職員向け講師・指導助言)

テーマ		場 所	期 日	定員	参加人数
自然	湿原環境保全の現地検討会	菅野湿原(鳥取市国府 町)・唐川湿原(岩美町)	10月14日(水)		6
	第5回千代川の今後を考える学識 懇談会	鳥取県立博物館	1月13日(水)		15
	絶滅危惧植物現地確認調査	鳥取市松上神社、松上 天満宮、河内神社等	2月9日(火)		3
合 計 3 回					24

(エ) ②学芸員派遣

テーマ		場 所	期 日	定員	参加人数
自然	絶滅危惧種生育環境及び保全に係 わる調査	智頭町穂見山	5月12日(火)		6
	青谷学(地学)	県立青谷高等学校	5月27日(水)		18
	総合的な学習「わたしの木」	鳥取市立岩倉小学校教 室・岩倉森	6月8日(月)		81
	青谷学(地学)	県立青谷高等学校	6月10日(水)		18
	鳥取で楽しもう ～地域社会で豊 かに暮らそう～(化石に関する講 義と化石レプリカ作成)	県立鳥取養護学校	6月22日(月)		11
	一般地質学Ⅲ	鳥取大学(オンライン 授業)	7月28日(火)		30
	石ラボ♪石を拾おう、石を知ろう	鳥取砂丘こどもの国	8月8日(土)		27
	青谷学(生物学)	県立青谷高等学校	8月26日(水)		中止
こん虫のかんさつ	鳥取市立大正小学校	9月8日(火)		28	

	テーマ	場 所	期 日	定員	参加人数
自然 の 続 き	青谷学（生物学）	県立青谷高等学校	9月30日（水）		19
	青谷学（生物学）	県立青谷高等学校	10月14日（水）		18
	鳥取・島根自然観察指導員交流会	南部町母塚山～要害山	10月24日（土）		19
	万葉と神話の庭散策講座	因幡万葉歴史館	10月31日（土）		10
	落ち葉の中のモンスターをさがそう	とっとり出会いの森	11月8日（日）		10
	ヒトの体のつくりと運動（動物の体のつくりとしくみ）	鳥取市立大正小学校	11月19日（木）		25
	大地のつくりと変化	米子市立崎津小学校	11月20日（金）		29
	鳥取県RDB改訂作業維管束植物部会打合せ	中部総合事務所	11月22日（日）		13
	植物の陸上進出	鳥取大学	11月24日（火）		70
	大地のつくりと変化（鳥取砂丘での野外観察）	鳥取砂丘	11月25日（水）		23
	とっとり生物多様性推進センター連絡協議会	鳥取県庁第2庁舎9階第21会議室	11月26日（木）		12
	地質時代の生物たち ―古生代、中生代、新生代の化石の変遷―	県立倉吉農業高校	12月3日（木）		15
	明治地区とその周辺の植物講座	鳥取市明治地区公民館	12月6日（日）		28
	環境を守るために私たちにできること（総合的な学習の時間）	米子市立加茂小学校	12月17日（木）		44
	湖山池の野鳥の観察	湖山池情報プラザ・青島	1月10日（日）		中止
	見て触って城山自然ツアー	米子市湊山公園	1月17日（日）		21
	土の中の生物や微生物のはたらき	鳥取市立西中学校	1月19日（火）		中止
	明治地区とその周辺の鳥など講座	鳥取市明治地区公民館	1月31日（日）		22
	バードウォッチングおよび身近な鳥についての講座	湖山池情報プラザ	2月9日（火）		23
	のんのんばあめ自然観察会	J R境港駅～砲台跡	2月11日（木）		10
土の中の微生物	鳥取市立気高中学校	2月26日（金）		54	
人文	古文書解説ボランティア	博物館会議室、倉吉博物館、米子市旧市庁舎	4月4日（土）		中止
	古文書解説ボランティア	博物館会議室、倉吉博物館、米子市旧市庁舎	5月2日（土）		中止
	古文書解説ボランティア	博物館会議室、倉吉博物館、米子市旧市庁舎	6月6日（土）		中止
	古文書解説ボランティア	博物館会議室、倉吉博物館、米子市旧市庁舎	7月4日（土）		20
	古文書解説ボランティア	博物館閲覧室、倉吉博物館、米子市旧市庁舎	8月1日（土）		24
	古文書解説ボランティア	博物館会議室、倉吉博物館、米子市旧市庁舎	9月5日（土）		24

テーマ		場 所	期 日	定員	参加人数
人文の続き	古文書解読ボランティア	博物館会議室、倉吉博物館、米子市旧市庁舎	10月3日(土)		33
	古文書解読ボランティア	博物館会議室、倉吉博物館、米子市旧市庁舎	11月7日(土)		32
	古文書解読ボランティア	博物館会議室、倉吉博物館、米子市旧市庁舎	12月5日(土)		44
	古文書解読ボランティア	博物館会議室、倉吉博物館、米子市旧市庁舎	1月9日(土)		35
	古文書解読ボランティア	博物館会議室、倉吉博物館、米子市旧市庁舎	2月6日(土)		31
美術	学内の作品を活用した対話型鑑賞とファシリテーション	鳥取短期大学	6月2日(火)		40
	《ワークショップ》造形遊び	浦安小学校	6月11日(木)		40
	《ワークショップ》紙コップ10,000個でArt	中ノ郷地区公民館	8月7日(金)		27
	学芸員派遣	余子公民館	8月19日(水)		中止
	学芸員派遣	若葉台小学校	10月23日(金)		105
	学芸員派遣	鳥取養護学校	11月11日(水)		中止
	アーティストの世界にふれてみよう	青谷小学校	12月07日(月)		38
	アーティストの世界にふれてみよう	浦安小学校	12月10日(木)		32
	《ワークショップ》ブラックライト	浦安小学校	2月3日(水)		31
	《ワークショップ》紙コップ10,000個でArt	北栄人権文化センター	2月27日(土)		9
合 計 51 回 (うち8回中止)					1,249

(オ) 教員向けイベント

テーマ	場 所	期 日	定員	参加人数
教員のための博物館の日 2020 in 鳥取県立博物館	博物館講堂, 博物館会議室, 博物館展示室	8月4日(火)		中止
合 計 1 回 (うち1回中止)				0

(カ) 普及講座・講演会

● 自然部門

行 事 名	場 所	期 日	定員	参加人数
《天体観望会》春の星を見る会	多目的広場	4月26日(日)		中止
《野外観察会》鳥取県生物学会員と歩く「生物観察会」in 21世紀の森	鳥取市河原町「21世紀の森」	5月10日(日)	30	中止
《野外観察会》自然観察さいしょの一步	米子城跡(湊山公園)	5月31日(日)	20	中止
《野外観察会》昆虫観察入門～初夏の虫たち～	久松公園	6月7日(日)	20	中止
《野外観察会》ふしぎな生きもの変形菌観察会	博物館会議室・博物館周辺	6月21日(日)	12	13
《自然講座》地層をつくろう!	博物館会議室	7月23日(木)	20	12
《天体観望会》夏の星を見る会	多目的広場	7月24日(金)		中止

(● 自然部門の続き)

行 事 名	場 所	期 日	定員	参加人数
《講演会》「ときめく変形菌」「単細胞の賢さを探る」	博物館講堂	7月25日(土)	125	125
《自然講座》チリメンモンスターをさがそう！	博物館会議室	7月26日(日)	20	22
《トークライブ》「世界は変形菌でいっぱいだ フシギでカワイイ変形菌のお話」	博物館講堂	8月2日(日)	110	100
《自然講座》標本を調べる会	博物館会議室	8月16日(日)	0	中止
《野外観察会》きのこを調べる会	大山町博労座	10月10日(土)	20	26
《野外観察会》川原の石をしらべよう！	鳥取市河原町和奈見	10月25日(日)	10	8
《野外観察会》おちばの中のモンスターをさがそう！	倉吉市打吹山	10月31日(土)	20	14
《野外観察会》はじめてのバードウォッチング	鳥取市湖山池	11月29日(日)	20	14
《講演会》ザトウムシが証す中国山地の生物地理	博物館講堂	12月5日(土)	90	80
《自然講座》化石のスケッチ講座	博物館会議室	12月20日(日)	10	13
合 計 17 回 (うち6回中止)				427

● 人文部門

行 事 名	場 所	期 日	定員	参加人数
《歴史講座》※池田光仲墓所の成立について	博物館会議室	4月11日(土)	20	中止
《歴史講座》探訪 因幡の古墳―湖山池周辺の古墳を歩く―	鳥取市内	5月17日(日)	20	中止
《歴史講座》昭和ハウス・富永館長の昭和レトロ講座	博物館講堂, 博物館会議室	6月7日(日)	30	20
《歴史講座》※市町村における公文書管理の現状と課題	博物館講堂	6月13日(土)	20	15
《講演会》鳥取県のオリンピック―陸上競技選手を中心に―	博物館講堂	6月14日(日)	78	65
《講演会》オリンピックがくれたもの	博物館講堂	6月21日(日)	78	20
《歴史講座》60年代の鳥取市街地をぶらり～昔の地図と写真でまちあるき～	鳥取市内	6月28日(日)	15	15
《歴史講座》昭和ハウス・富永館長の昭和レトロ講座	博物館会議室	7月5日(日)	30	25
《歴史講座》※因幡神職による神葬祭運動―弘化・嘉永期を中心に―	博物館会議室	7月11日(土)	20	13
《歴史講座》漆塗り体験講座	博物館会議室	7月12日(日)	20	10
《歴史講座》めざせ！とっとり戦国博士 in 博物館	博物館会議室	7月19日(日)	12	8
《歴史講座》※中世因幡国と広元流大江氏	博物館会議室	8月8日(土)	20	中止
《歴史講座》昔の屏風の下からお宝をさがそう！	博物館会議室	8月9日(日)	20	中止
《民俗講座》鳥取県の民話を聞く会	博物館展示室	8月23日(日)		中止
《歴史講座》※尼子勝久発給文書・奉行人連署状からみた再興戦	博物館会議室	10月10日(土)	20	13

(● 人文部門の続き)

行 事 名	場 所	期 日	定員	参加人数
《講演会》日本歴史における後醍醐天皇の役割	博物館講堂	10月18日(日)	120	67
《歴史講座》古戦場・山城・荘園をあるくー私部城で考える因幡の中世ー	八頭町	11月8日(日)	20	20
《歴史講座》※佐治郷司・地頭職を巡る佐治氏・曳田氏の相論についてー国立歴史民俗博物館所蔵「弁官補任」紙背文書の再考ー(仮)	博物館会議室	11月14日(土)	20	20
《歴史講座》伯耆往来をあるく(下市～御来屋)	大山町内	11月29日(日)	20	17
《歴史講座》※昭和22年昭和天皇巡幸時鳥取駅群衆事故の発生要因	博物館会議室	12月12日(土)	20	13
《歴史講座》親子で中国茶と煎茶を楽しむ会	博物館会議室	12月13日(日)	20	11
《民俗講座》鳥取県の民話を聞く会	博物館展示室	12月20日(日)		25
《歴史講座》※鳥取天徳寺と「湯所晩鐘」	博物館会議室	1月16日(土)	20	16
《歴史講座》古代の鏡を観察してみよう	博物館会議室・常設展示室	1月24日(日)	8	10
《講演会》※幕末・明治の動乱ー京都府知事北垣国道と鳥取人脈ー	博物館講堂	2月13日(土)	100	中止
《歴史講座》戦国時代の古文書解読ー毛利編ー	博物館会議室	2月21日(日)	20	20
《歴史講座》戦国時代の古文書解読ー尼子編ー	博物館会議室	2月28日(日)	20	20
合 計 27 回 (うち6回中止)				443

● 美術部門

行 事 名	場 所	期 日	定員	参加人数
《アートシアター》「若沖と江戸絵画ーどうぶつたちの生きる力とユーモア」	博物館講堂	4月11日(土)	70	中止
《ギャラリートーク》美術家大辞典 近世以前編・な行	博物館展示室	4月18日(土)		中止
《ワークショップ》らくがきばんざい! 春編	博物館前庭	4月25日(土)		中止
《スペシャルワークショップ》らくがきばんざい! リズムばんざい!	博物館前庭	5月2日(土)		中止
《ギャラリートーク》美術家大辞典 近現代編	博物館展示室	5月9日(土)		中止
《アートシアター》「ファブリックの女王」	博物館講堂	5月16日(土)	70	中止
《ワークショップ》おでかけ大辞典-新米学芸員と街ぶら-Part2	鳥取市内	5月23日(土)	20	中止
《スペシャルアートレクチャー》『“伝える”ことは“きく”こと』～わかれろとする感性を磨こう～	博物館講堂	5月30日(土)	70	中止
《アートシアター》「ヨーゼフ・ボイスは挑発する」	博物館講堂	6月6日(土)	50	9
《アートシアター》「ヨーゼフ・ボイスは挑発する」	博物館講堂	6月13日(土)	50	8
《アートシアター》「匠の世界シリーズ」	博物館講堂	6月20日(土)	50	8

(● 美術部門の続き)

行 事 名	場 所	期 日	定員	参加人数
《ワークショップづくり隊！のワークショップ》ワークショップづくり隊公開会議	博物館会議室・博物館講堂	6月27日(土)	20	15
《アートシアター》若冲と江戸絵画 どうぶつたちの生きる力とユーモア	博物館講堂	7月4日(土)	50	9
《ギャラリートーク》美術家大辞典 近世以前編	博物館展示室	7月11日(土)		7
《スペシャルワークショップ》「みつげよう！森からの贈りもの」	博物館会議室	7月18日(土)	40	49
《ワークショップ》泥でアート！	博物館地下バックヤード	7月25日(土)		中止
《ワークショップ》リアル変形菌フィギュアを作ろう	博物館会議室	8月1日(土)	40	34
《連携講座》発見♪おしゃべり鑑賞会(対話型鑑賞会)	米子市美術館	8月8日(土)		中止
《アートシアター》「劇場版ムーミン谷の彗星 パペットアニメーション」	博物館講堂	8月15日(土)	50	中止
《ワークショップ》「ぼん、ぼん、ぺたん！～スタンプであそぼう」	博物館会議室	8月22日(土)		中止
《ギャラリートーク》コレクション展Ⅲ 美術家大辞典 近世以前編	博物館展示室	8月29日(土)		中止
《アートシアター》「ファブリックの女王」	博物館講堂	9月5日(土)	50	41
《アートシアター》「365日のシンプルライフ」	博物館講堂	9月12日(土)	50	23
《アートシアター》「ザ・スクエア 思いやりの聖域」	博物館講堂	9月19日(土)	50	12
《スペシャルアートレクチャー》『“伝える”ことは“きく”こと』～わかろうとする感性を磨こう～	博物館講堂	9月26日(土)	70	67
《アートシアター》劇場版ムーミン谷の彗星	博物館講堂	10月3日(土)	70	40
《アートレクチャー》「フィンランドデザインの魅力」	博物館講堂	10月10日(土)	70	43
《講演会》「フィンランドの文化に触れる」	博物館講堂	10月17日(土)	70	42
《ワークショップ》「編み物をしながら、フィンランド流おうち時間を体験」	博物館会議室	10月17日(土)	20	20
《スペシャルアートシアター》「かもめ食堂」	博物館講堂	10月24日(土)	70	140
《ギャラリートーク》企画展ギャラリートーク	博物館展示室	10月31日(土)		48
《ワークショップ》「挑戦！私もテキスタイルデザイナー」	博物館会議室, 博物館展示室	11月7日(土)	15	15
《アートセミナー》「展覧会を準備するなかで考えたこと～デザインの根底にあるものから文化施設のあり方まで」	博物館講堂	11月14日(土)	70	29
《ワークショップ》おでかけ大辞典—新米学芸員と街ぶら—	景福寺、玄忠寺	11月21日(土)	20	10
《トークセッション》企画展「ミュージアムとの創造的対話 03」オープニング・アーティスト・トーク	博物館展示室・博物館内	11月28日(土)		25
《トークセッション》「文化芸術と価値創造」	倉吉サテライト会場	12月5日(土)	20	15

(● 美術部門の続き)

行 事 名	場 所	期 日	定員	参加人数
《アートレクチャー》「作家亡き後に作品を再現するということ」	博物館講堂	12月12日(土)	70	20
《特別講演会》「コレクションとアーカイヴ—松澤宥・村岡三郎・原口典之を例に」	博物館講堂	12月19日(土)	70	27
《ギャラリートーク》企画展関連企画 学芸員と巡るギャラリー・ツアー	博物館展示室, 倉吉サテライト会場	12月26日(土)		55
《スペシャル・イベント》原口典之×木野彩子「Oil, Water and Woman」	倉吉サテライト会場(倉吉市秋喜)	12月27日(日)		56
《ワークショップ》アートの種まきプロジェクト「美術館ができるまで」を伝えるフリーペーパーづくり:記事作成のための講座3—デザイン編(オンライン)	博物館会議室	1月16日(土)	20	10
《ワークショップ》『図工・美術の作戦会議』みる・つくるを楽しむために	博物館展示室, 博物館会議室	1月23日(土)		中止
《ギャラリートーク》生誕100年記念「杵島隆—不滅のパイオニア精神(スピリット)」	博物館展示室	1月30日(土)		8
《アートシアター》100人の子供たちが列車を待っている	博物館講堂	2月6日(土)	70	9
《特別講演会》「パリ時代の岡本太郎」	博物館講堂	2月11日(木)	70	56
《ギャラリートーク》生誕110年 岡本太郎—パリから東京へ	博物館展示室	2月13日(土)		52
《スペシャルアートシアター》「宇宙人東京に現わる」	博物館講堂	2月20日(土)	70	62
《アートシアター》岡本太郎関連短編映像—挙上映会	博物館講堂	2月27日(土)		115
合 計 48 回 (うち14回中止)				1,179
総参加者数				4,553

エ 調査研究活動

分野	事項
地学	鳥取県の地形地質と化石に関する調査研究
動物	鳥取県の動物相および動物の分類に関する調査研究 鳥取県沿岸の漂着動物に関する調査研究
植物	鳥取県の植物相および植物の分類に関する調査研究
考古	館蔵品の調査研究 鳥取県内の原始・古代の遺跡の調査研究
歴史	鳥取県内の石造物調査研究 山陰地方ゆかりの宸筆の研究 鳥取県の貿易陶磁に関する調査研究 鳥取藩政資料およびそのデジタル化に関する調査研究 鳥取県内の戦争遺跡に関する調査研究 鳥取県の酒造業に関する調査研究
民俗	鳥取県内の社寺の棟札に関する調査研究 東京オリンピック関係資料の調査研究
美術	鳥取県に関係した美術資料、作家や作品等に関する調査研究 令和2年度企画展(「ザ・フィンランドデザイン展」「ミュージアムとの創造的対話vol.3」 「生誕110年 岡本太郎」)および令和3年度企画展(「受贈記念 垣田堅二郎コレクション展」 「東郷青児、前田寛治と、Parisゆかりの画家たち(仮称)展」「小早川秋聲展」)等に関する調査研究
教育普及	教育プログラムの開発に関わる研究 デジタルアーカイブに関する研究

2.1 博物館資料保有状況

(単位：点)

区分	前年度末 保有点数	本年度増加点数					本年度中 減少点数	本年度末 保有点数
		購入	寄贈	採集	保管換	分類換		
地学	8,040							8,040
動物	27,077	10	9,032	152				36,271
植物	55,660	5						55,665
歴史	54,775	1	564					55,340
近現代資料	7,955	129	191					8,275
民俗	4,117		3					4,120
考古	8,292							8,292
美術	9,771	141	77					9,989
合計	175,687	286	9,867	152	0	0	0	185,992